

「ゲッカビジン」

廣瀬清一 事務局

ゲッカビジン(月下美人)には、「夜の女王 Queen of the Night」という別名がある。

サボテン科クジャクサボテン属の常緑多肉植物で、メキシコ～中南米が原産で熱帯雨林に自生する。

棘は退化している。緑色をした茎のほとんどは扁平な肉厚の葉状になっていて、縁は波打っている。

外観は、厚手のハラン(葉蘭)、緑単色のサンスベリアといった感じで地味である。

一方花は夜間、それも一夜だけ透けるように白く魅惑的な形をした大きな花を咲かす。開花に伴い神秘的な香りを放つ。翌朝には萎んでしまう一夜限りのはかない命である。

月下美人を育てて4年になる。開花した瞬間を見たことがなかった。

何とラッキーなことに、まさに今夜咲くであろうゲッカビジンの蕾が目の中にある。

垂れ下がっていた蕾は上向きになってかなり膨らんでいる。夕方には花の先端が緩みはじめてきた。

暗闇に映える真っ白で大きな花と、あたりに漂う香りはとても神秘的。花粉っぽいパウダリーに、ローズ、スパイスが入り混じったグリーンフローラルの妖艶な香りが広がる。

今回は、ばっちりとお花の瞬間を見届けることができた。充実した時間を持って幸せである。

翌朝には美しい姿も香りも消えてしまった。

自分でゲッカビジンを育てていない限り、なかなか花の咲くのを見る機会はないが、函館の五稜郭タワーでは、『月下美人』鑑賞会が期間限定で特別に催されている。よく探せば各地で同じような鑑賞会が行われているようである。



参考文献

- 1) Yiyang Zhang, Yuhan Zhang 「Floral scent emission of *Epiphyllum oxypetalum* : discovery of its cytosol-localized geraniol biosynthesis」 Horticulture Research, 2025, 12: uhaf039
<https://doi.org/10.1093/hr/uhaf039>